

館山市の家計簿

令和7年度 当初予算版



目 次

予算とは	．．．	(3)
館山市の予算（令和7年度）	．．．	(4)
一般会計歳入	．．．	(6)
一般会計歳出	．．．	(9)
市債（借金）と基金（貯金）	．．．	(12)
館山市の財政を家計に例えると	．．．	(14)
これからの財政運営のために	．．．	(15)
令和7年度の主な事業	．．．	(17)

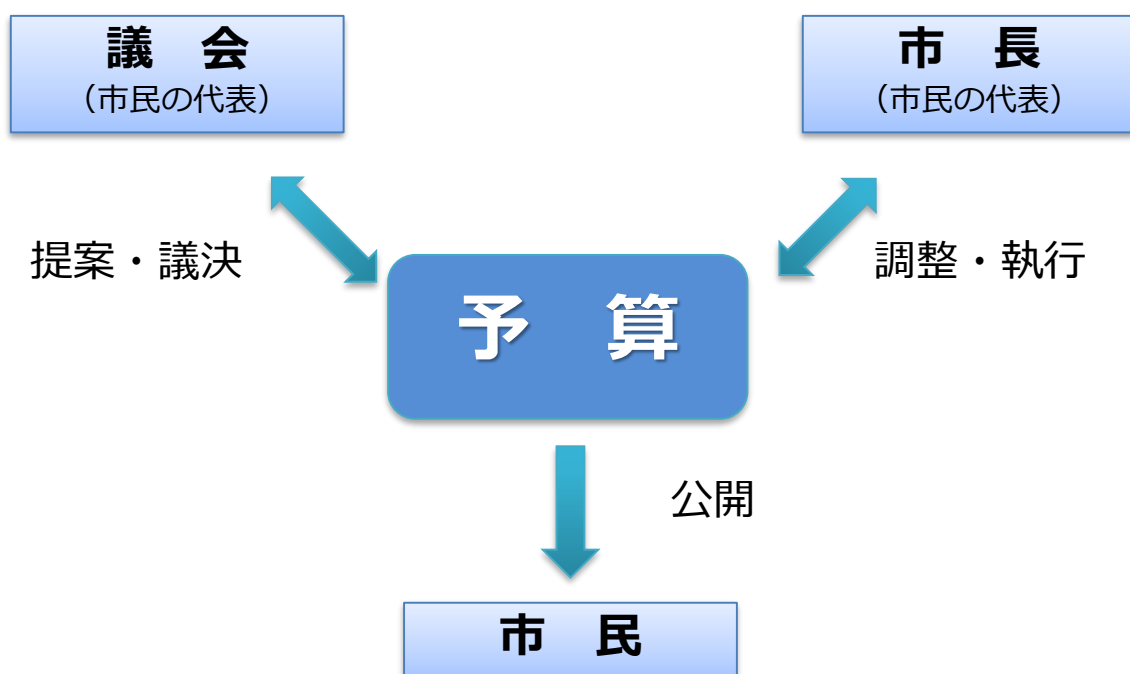
予算とは

館山市に1年間（4月～3月）に入ってくる収入の見積りと、その使い道を表すものが「予算」です。

市長は、予算案を作り市議会へ提出し、市議会の審議と議決により予算が成立します。

予算編成のスケジュール

9月末	市長から来年度予算編成にかかる方針「予算編成方針」を指示
10月	各所属で来年度の事業計画を検討し、予算要望を提出
12月～1月	市長による予算査定を実施 各課の予算要望を「予算案」としてまとめる
2月末	市長が予算案を市議会へ提出 議会での審議
3月	議決により予算が成立



館山市の予算（令和7年度）

▼会計の区分について

収入と支出の関係を明確にするため、「一般会計」「特別会計」「公営企業会計」の3つのグループに区分しています。

一般会計

219 億 200 万円

対前年度 △21 億 2,100 万円
(△8.8%)

教育、福祉、防災、道路整備、農水産業、商工観光など市の基本的な行政サービスを行う会計です。

特別会計

130 億 7,958 万円

対前年度 +1 億 1,978 万円
(+0.9%)

内

国民健康保険

53 億 4,975 万円

対前年度 △2 億 320 万円
(△3.7%)

訳

後期高齢者医療

9 億 6,415 万円

対前年度 +3,510 万円
(+3.8%)

介護保険

67 億 6,568 万円

対前年度 +2 億 8,788 万円
(+4.4%)

特定の事業を特定の収入によって行い、その収支を明確にするために一般会計から独立させた会計です。

公営企業会計

下水道事業会計

9 億 8,855 万円

対前年度 △7,975 万円
(△7.5%)

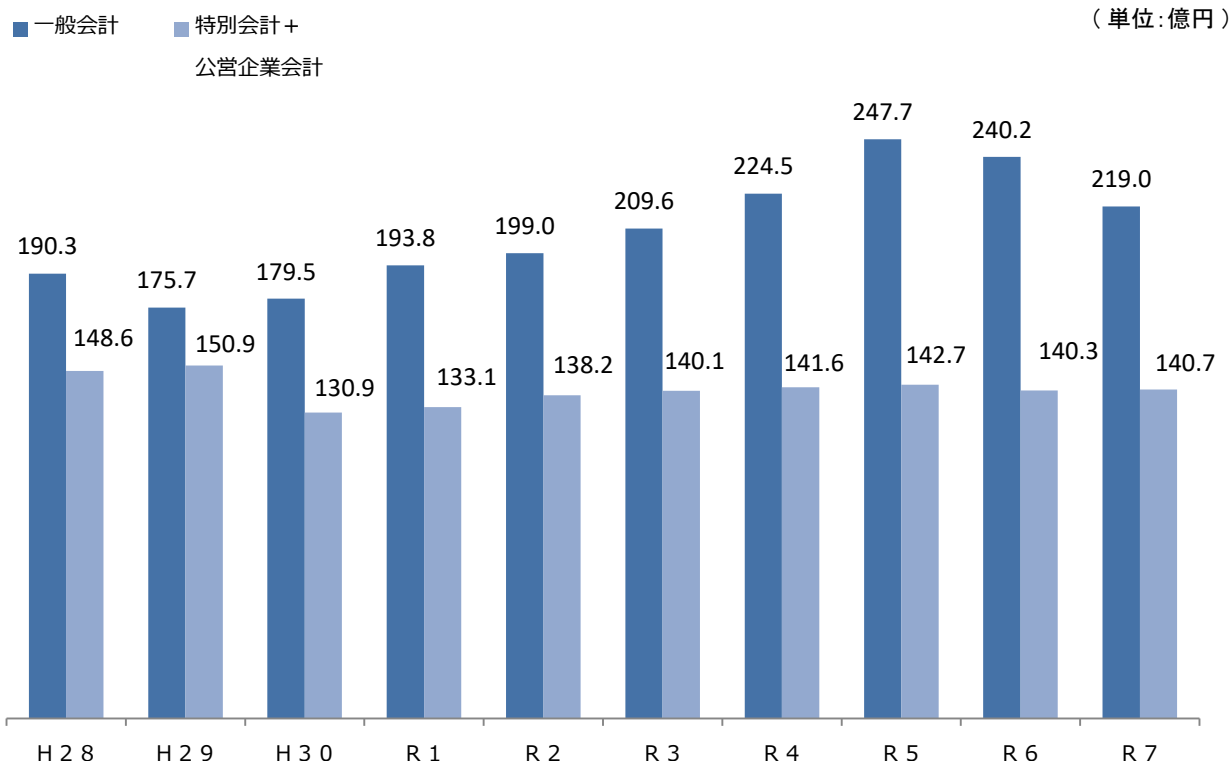
民間企業と同じように、事業で収益をあげて、運営している会計です。

総 計

359 億 7,013 万円

対前年度 △20 億 8,097 万円
(△5.5%)

予算規模の推移と特徴



▼一般会計予算について

当初予算額として過去最大規模となった令和5年度から減少を続けているものの、依然として200億円を超える額となっています。これは、国全体として、物価の上昇、人件費の増に加え、少子高齢化の進展による社会保障費の増が重なっており、本市においても同様の状況であるためです。

減少要因ですが、土木費では、都市計画道路整備管理費などが減少となり、教育費では、館山中学校整備事業及び北条小学校プール整備の終了に伴い減少しています。

▼特別会計予算について

高齢化の進行などによる医療費や介護サービス費の増加により、平成29年度まで年々増加傾向にありました。

平成30年度には、国民健康保険の都道府県化に伴う制度改革により、国民健康保険特別会計の額が大幅に減少したものの、今後は再び増加していくものと見込まれます。

※令和2年度から下水道事業は公営事業会計方式に変更され、独立した会計となりました。

一般会計歳入



自主財源と特定財源

自主財源 … 市が自主的に調達できる収入です。自治体財政運営の体力と言われ、その割合が大きいほど自立した財政運営が可能となります。

依存財源 … 国や県など、外的な要因に頼る収入です。館山市は、自主財源より依存財源の割合の方が高くなっています。

市税収入の内訳

個人市民税	21.2億円	市民の皆さまから、給与などの所得を基準に納めていただく税
法人市民税	3.0億円	市内に事業所がある法人に納めていただく税
固定資産税	25.1億円	市内に土地・家屋及び償却資産を有している人に納めていただく税
市たばこ税	3.8億円	市内でたばこを買った方に納めていただく税
軽自動車税	1.9億円	軽自動車や原動機付自転車などを所有している人から納めていただく税
都市計画税 【目的税】	5.1億円	都市計画区域内（館山市は市内全域が指定）にある土地・建物に対して課税
入湯税 【目的税】	0.3億円	鉱泉浴場における入浴に対し課税

【目的税の使いみち】

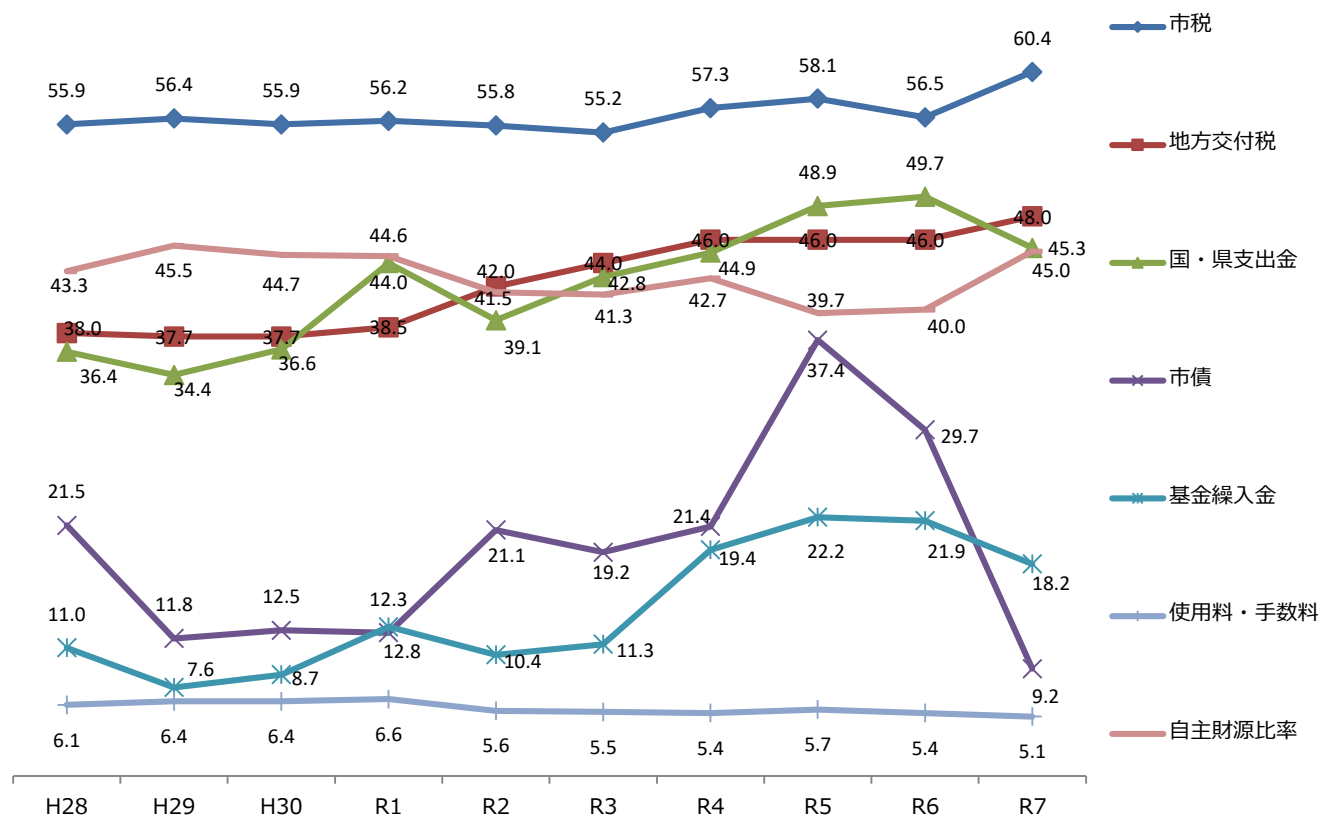
都市計画税と入湯税は「目的税」と言われ、使いみちが定められています。

都市計画税	都市計画事業に要する費用に充当	船形館山線道路整備事業、公共下水道整備事業、過去に実施した都市計画事業の市債返済など
入湯税	観光振興事業や消防施設整備などに要する費用に充当	観光イベント事業や消防機材の購入費用など

歳入予算の推移

(単位：億円)

※自主財源比率は%



【ポイント】

●市税収入の増加

個人住民税の定額減税が終了したことによる増収が見込まれます。そのほか、固定資産税及び都市計画税においては、「土地」は地価の下落分を考慮した減収を見込みますが、「家屋」及び「償却資産」では過去の実績から増収を見込みました。

●地方交付税・国県支出金は、年度間で大きく変動

国の政策や国・県補助事業の実施状況により、年度間で変動します。

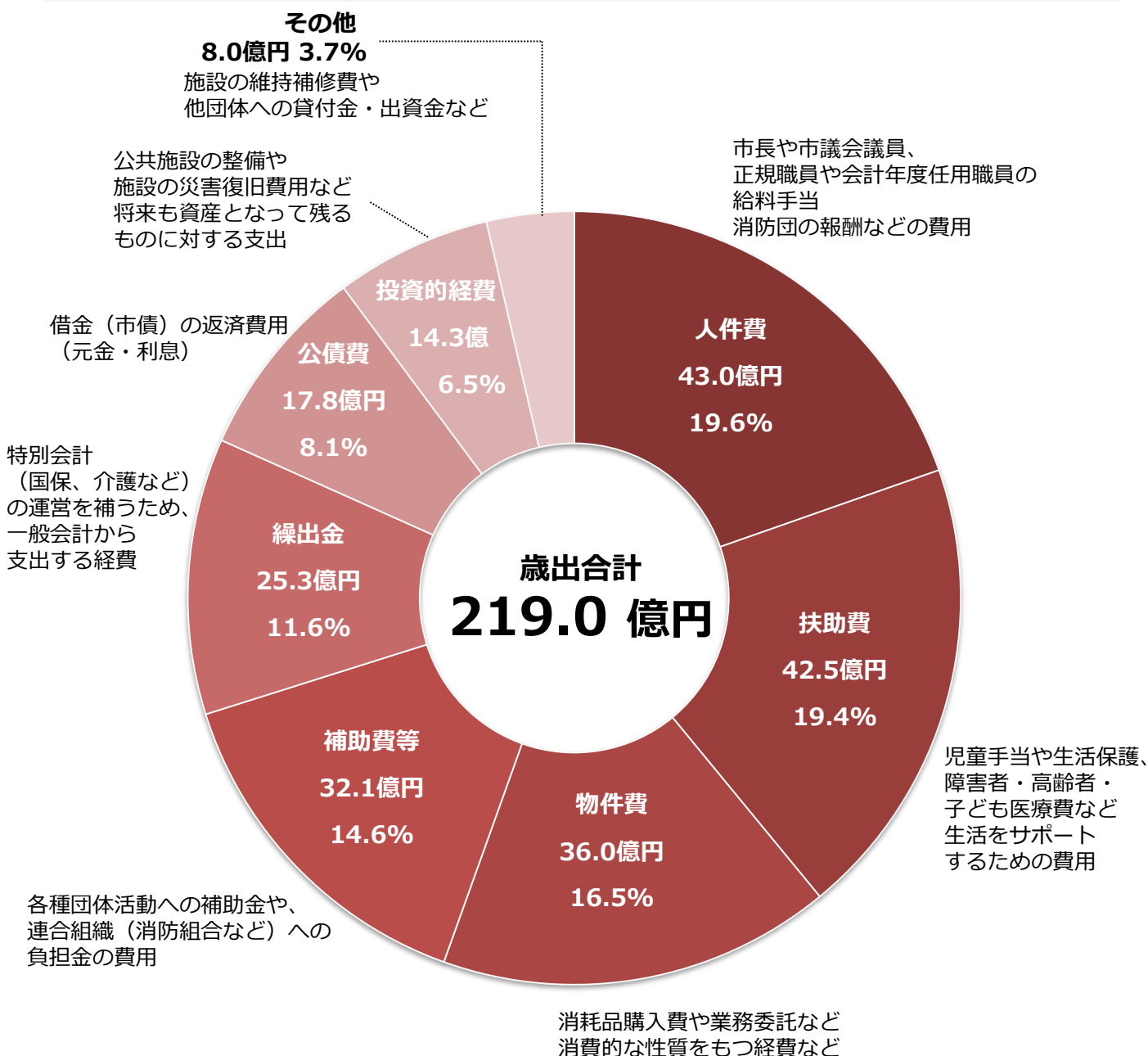
●市債（借金）の減少

館山中学校整備事業が終了したことなどに伴い教育債が大きく減額となっており、「市債」全体としても、市債発行の抑制に努めたことから、前年度比約20.5億円の減額となりました。この結果、令和7年度末の市債残高は、約229.3億円と見込まれ、前年度末見込みと比較して約7億円、3%の減となります。

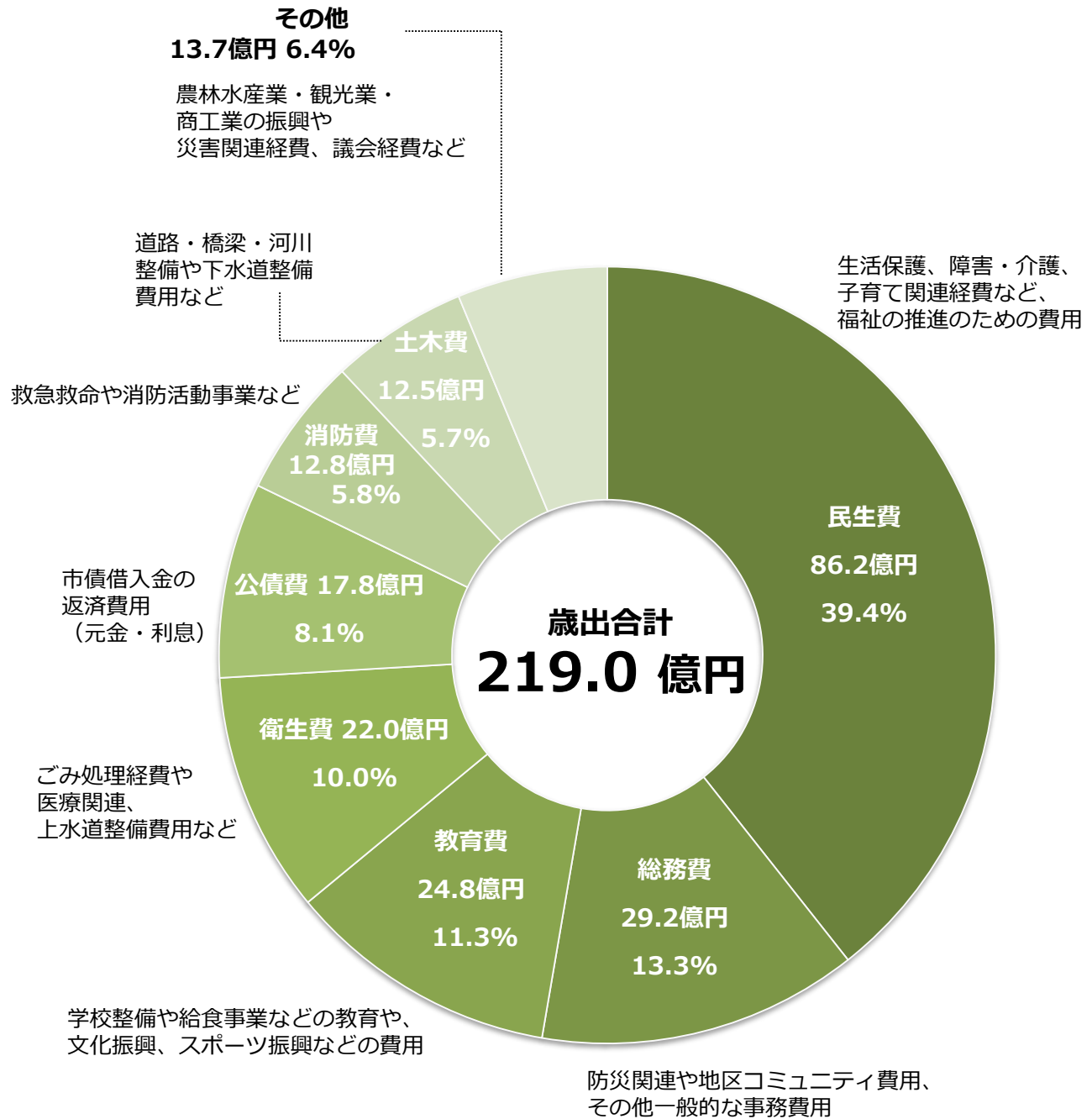
一般会計歳出

歳出は、・どのような性格の経費として使われているのか（性質別）
・どのような分野の行政サービスに使われているのか（目的別）
2つの分類方法から見ることができます。

【性質別】一般会計予算額

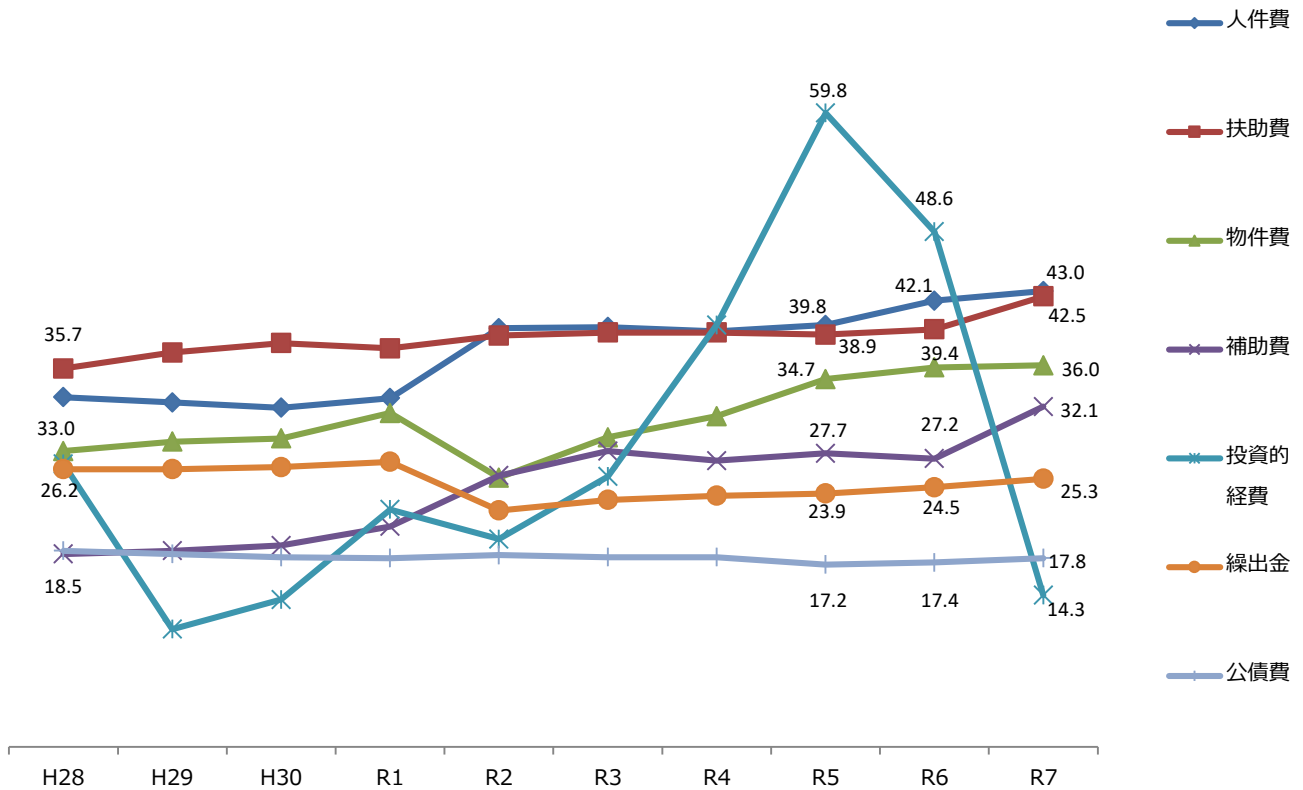


【 目的別 】 一般会計予算額



歳出予算の推移

(単位 : 億円)



【ポイント】

●社会保障関連経費（扶助費）は増加

制度改正により児童手当費が大きく増額しました。

●人件費の増加

国の人事院勧告に基づく市職員の給与改定による増のほか、国勢調査の実施に伴い、調査員の報酬が増額となっています。

●投資的経費の減少

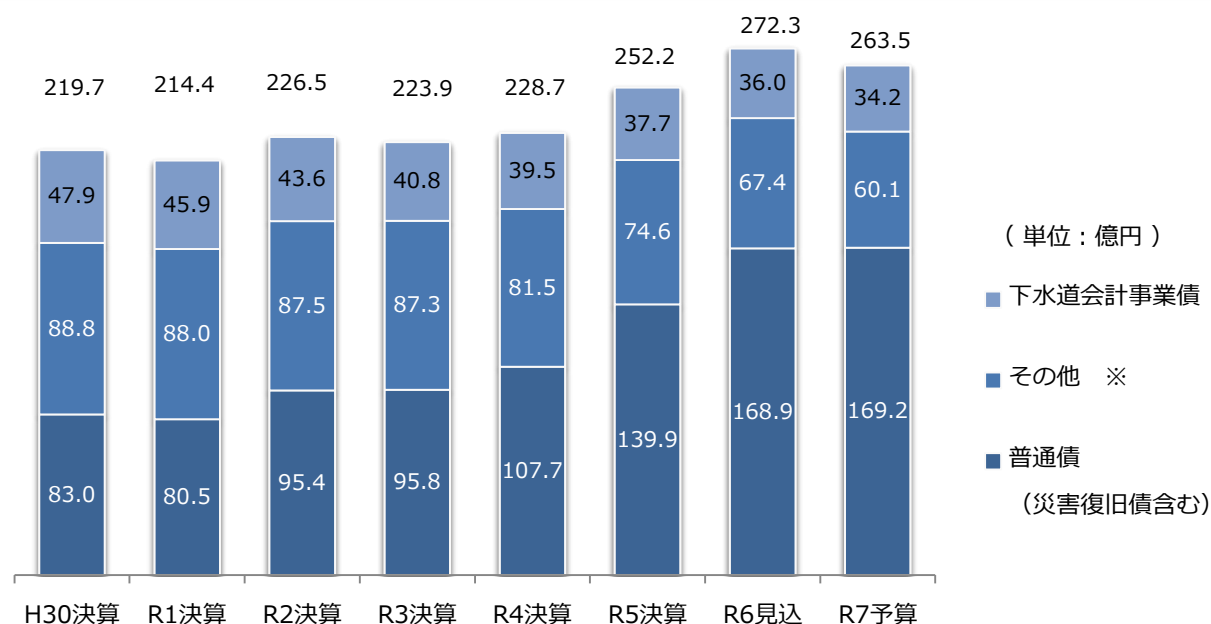
都市計画道路整備管理費などが減少となったほか、館山中学校整備事業及び北条小学校プール整備の終了に伴い減となっています。投資的経費は、大規模な公共事業の実施状況により、年度間で増減が生じます。

市債（借金）と基金（貯金）

市債の役割

単年度の財源確保	大規模な建設事業を実施した年でも、その財源（収入）を確保することで、他の行政サービスを滞りなく実施することができる
世代間負担の公平性	公共施設の整備は、将来使用する（便益を受ける）住民にも、その返済費用を負担してもらうことで、世代間の公平性が確保される

市債残高の推移



※その他は、臨時財政対策債、減税補てん債等の合計

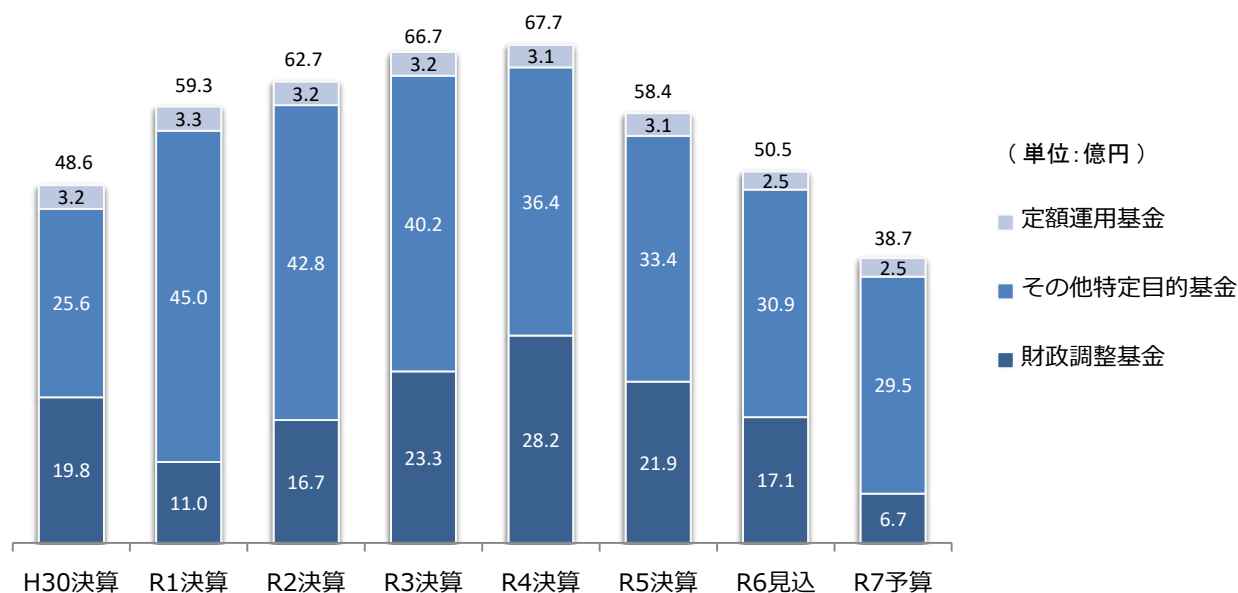
館山中学校整備事業が終了したことなどに伴い教育債が大きく減額となっており、市債全体としても、市債発行の抑制に努めたことから、前年度比約20.5億円に減額となりました。

この結果、令和7年度末の市債残高は、約229.3億円と見込まれ、前年度末見込みと比較して約7億円、3%の減となります。

基金の種類と役割

財政調整基金	年度間の財政の不均衡を調整し、安定した財政運営を行うための基金 急激な税收減少や災害時などの不足の事態に備えるもので、「自治体財政運営のかなめ」と言える
その他特定目的基金	特定の用途を定めて積立てる基金 (庁舎建設基金、観光振興基金、環境保全基金、子ども・子育て支援基金など)
定額運用基金	定額を積立て、資金を運用する基金 (土地開発基金、看護師等修学資金貸付基金など)

基金残高の推移



食のまちづくり拠点施設及び館山夕日栈橋の整備費用に係る地方債借入分の償還費用について「前澤友作館山応援基金」から繰入れを行うほか、学校再編施設改修事業への「庁舎等建設基金」の活用、ふるさと納税を原資とした「フレフレ・たてやま応援基金」や「子ども・子育て支援基金」などのほか、「減債基金」など各種特定目的基金から合わせて約7.8億円の繰入れを行います。

これらの結果、不足する財源については、「財政調整基金」から約10.4億円（前年度比約5.5億円減）の繰入れを行うこととし、基金残高は総額約38.7億円（前年度比約11.9億円減）となる見込みです。

館山市の財政を家計に例えると

館山市の家計簿

一般会計決算を、家庭の総収入300万円（1か月25万円）の家計に例えて説明します。

収 入（1ヶ月）	
給与（市税収入）	6.9万円
手当（使用料など）	4.4万円
貯金取崩し（基金繰入金）	2.0万円
親からの援助 （地方交付税・国県支出金）	10.6万円
銀行からの借入（市債）	1.1万円
合計	25.0万円

支 出（1ヶ月）	
食費（人件費）	4.9万円
医療費（扶助費）	4.9万円
ローン返済（公債費）	2.0万円
水道光熱費（物件費）	4.1万円
交際費（補助費）	3.7万円
リフォーム（投資的経費）	1.6万円
こどもへの仕送り（繰出金）	2.9万円
貯金（基金繰出金）	0.3万円
貸付金など（貸付金、出資金）	0.6万円
合計	25.0万円

【現状】

「給与」や「手当」のほか、「親からの援助」に頼っている状況です。

【改善点】

「給与・手当」を増やし、「親からの援助」の割合を減らすことが重要です。
また、「銀行からの借入」は、後年度の返済を見通して、計画的に行う必要があります。

【現状】

「食費」や「医療費」などの固定費が大きな割合を占めており、自分の裁量で使用できるお金はそれほど多くありません。

【改善点】

日々の節約を基本に、大きな買い物は計画的に行ったり、建物を適正規模にして、水道光熱費やリフォーム代を抑えるなど、中長期的な視点からライフスタイルを見直し、上手にやり繰りしていくことが重要です。

また、万が一の災害等に備えた準備も必要です。

これからの財政運営のために

館山市に行財政改革が必要な理由

将来の心配事…

公共施設の老朽化



更なる少子高齢化による
福祉・医療費の増加

「ゆとり」のない
財政運営



人口の減少による
税収などの伸び悩み

これから増加する費用や、
新たな市民サービスの向上を図るためには…

市民協働

(行政が実施すること、
市民・NPO団体などの
役割の明確化)



行政サービスを
受ける人の応分の負担



生活習慣病の予防、
病気の早期発見・治療など
健康寿命を延ばす施策による
医療・介護費の削減



公共施設の統廃合・
民間委託の推進

行財政改革の取組み

市では今後の中長期的な財政予測や、現状の課題点を踏まえ、令和5年3月に策定した「**第4次館山市行財政改革方針**」に基づき、行財政改革に資する具体的施策に取り組んでいます。

取組の種類	内 容
持続可能な財政運営	○健全な財政基盤の確立 ○自主財源等の歳入確保 ○地域経済の活性化 ○歳出改革と将来負担の軽減
公共施設等の 管理・運営の最適化	○公共施設マネジメントの推進 ○脱炭素化への取り組み ○民間活力を生かした公共施設等の管理運営
行政サービスの質の向上と 効率化・D Xの活用	○戦略的な組織体制の構築 ○市政に参加しやすい環境づくり・市民協働の推進 ○住民サービスの向上 ○情報ネットワークの強化・I C Tを活用した サービスの向上

令和7年度の主な事業

出産・子育て支援

私立幼稚園支援費（こども課）

事業費		1億459万円	私立こども園等を利用する費用を市が負担します。なお、令和7年度より、公私連携幼保連携型による「認定こども園OURS館山」が開園します。
財源	国・県	7,185万円	
	市債	—	
	他	—	
	市	3,274万円	

こども家庭センター事業（こども家庭センター）

事業費		917万円	こども家庭センターを開設し、母子保健機能と児童福祉機能の一体的な運営を行うことにより、子どもや子育て世帯、妊産婦を対象に、医療・福祉・保育・教育など多方面から継続的かつ一体的な支援を提供します。
財源	国・県	582万円	
	市債	—	
	他	—	
	市	335万円	

生活と命を守る

市街地循環バス運行事業（企画課）

事業費		3,305万円	市街地における移動手段を継続的に確保し、回遊性の向上や市街地の魅力アップを図ります。
財源	国・県	221万円	
	市債	—	
	他	—	
	市	3,084万円	

道路新設改良事業（建設課）

事業費		1億5,337万円	生活環境及び道路機能の向上を図るため、市道の改良に伴う調査、設計、工事等を実施します。
財源	国・県	550万円	
	市債	1億3,840万円	
	他	—	
	市	947万円	

教育環境の整備・充実

学校再編施設改修事業（建築施設課）

事業費		4億8,887万円	「館山市立小中学校再編計画」に基づき、館山小学校と那古小学校の統合改修工事及び北条小学校の設計業務を実施します。
財源	国・県	417万円	
	市債	4億4,520万円	
	他	3,950万円	
	市	—	

経済・観光の活性化

渚の駅たてやま施設管理運営費（観光みなと課）

事業費		5,467万円	施設の維持補修など適切な維持管理を行うとともに、展示物の更新を行うなど、交流施設としての魅力向上を図ります。
財源	国・県	179万円	
	市債	—	
	他	4,804万円	
	市	484万円	

本書について、ご意見等ございましたら
下記までお気軽にお寄せください。

館山市の家計簿

令和7年度 当初予算版

令和7年4月作成

館山市総務部行革財政課

T E L 0470-22-3291

F A X 0470-23-3115

E-Mail gyouzai@city.tateyama.chiba.jp